＜慢性疼痛の多面的評価すステムの開発と客観的評価法の確立に対する研究＞

第 3 回班会議　議事録

開催日時：2012 年 1 月 15 日（日）　14 時～16 時
開催場所：品川イーストワンタワー　ミーティングルームⅠ
出席者（敬称略）
倉田二郎、北村俊英、齋藤　繁、荻野祐一、福井　聖、大鳥精司、川上守
西原真理、竹林庸雄、矢吹省司、安達伸生、川口　浩、松本守雄、住谷昌彦
紺野愼一、関口美穂、二階堂琢也

議題
Ⅰ．研究内容の発表
1．痛みの程度の評価について→大鳥先生、川口先生、竹林先生
2．神経障害性疼痛のスクリーニングの評価について→住谷先生、西原先生、大鳥先生
3．心理的因子の評価について→矢吹先生、西原先生、川上先生
4．QOL **の評価について→矢吹先生、松本先生、越智先生**
5．脳機能画像による評価について→矢吹先生、倉田先生、大城先生、斉藤先生、福井先生、西原先生、松本先生、住谷先生、越智先生
6．電気生理学的診断による評価について→竹林先生、川上先生
Ⅱ．今後の予定

内容
Ⅰ．研究内容の検討
1．痛みの程度の評価についてのプレゼンテーション後に討議された.
- **主観的評価法として** McGill Pain Questionnaire (MPQ), NRS**、客観的評価法として** pain vision **（痛み度）を使用して評価した.** 78 **例の現段階でのデータでは、痛み度と** NRS, MPQ **との相関は認められていない. 今後、症例を増やしてさらに検討する．相関が認められない場合には慢性疼痛の評価に** pain vision **は適さないという結論になる可能性がある．また、しびれと痛み度との相関についても検討する.**

2．神経障害性疼痛のスクリーニングの評価についてのプレゼンテーション後に討議された.
- Pain DETECT **の** validation study **を実施中である。神経障害性疼痛** 60 **例（のべ** 88 **例）の調査では、内容妥当性、基準関連妥当性、構成概念妥当性の結果からスクリーニングツールとして有用である.**

3．心理的因子の評価についてのプレゼンテーション後討議された.
- Pain catastrophizing scale (PCS)**も治療によって変化する可能性がある.**
- BS-POP **治療者用では、評価者によって得点が変化する可能性がある．評価の時期や誰が評価するかなど評価の方法を見直す必要がある.**
- PCS **と** BS-POP **の関係について検討する必要がある.**

4．QOL **の評価についてのプレゼンテーション後に討議された.**
・腰痛患者の痛みの程度、RDQ、BS-POP、**治療法についてのインターネット調査について報告があった.**

5．脳機能画像による評価についてのプレゼンテーション後に討議された.
- **各担当先生から、**fMRI, MRS, Somatotopy, SPECT**、睡眠評価、膝関節裂隙圧迫刺激・表皮内電気刺激による脳活動部位の評価についての報告があった.**

6．電気生理学的診断による評価について以下のことが討議された.

- **電気生理学的手法で、客観的評価はない.**
- MRI T2 mapping **による腰痛評価について検討中である. 軟骨終板の変化をみるのであれば、**3.0T **の** MRI **で詳細に検討する必要があるのではないか.**

7. **社会的要因の評価**

- **慢性腰痛の危険因子と報告されている要因を参考に、オリジナルの評価法（項目）を今年中に決めたい. 家族の支援や学歴などの項目についても検討が必要.**

8. **慢性疼痛と難治性疼痛の定義**

- **検討する時間がなくなったため、メールで意見をまとめる予定となった.**

総括

今回までの班会議での各グループの発表内容を、次回の班会議までに再度各グループにて検討していただく.
今年度の研究報告書を作成するため、各先生に報告書を作成していただく.

<u>II. 今後の予定</u>

次回の班会議の候補日（6 **月から** 8 **月ごろ）について、各研究者にメールで連絡し、参加可能者が最も多い日程で次回の班会議を調整する.**